

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習Ⅳ Care Practice Support Ⅳ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択 (介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2F	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護総合演習Ⅳでは、実習で学んだことを通して、さまざまな施設で生活する利用者を総合的に捉え、生活の場を踏まえた介護実践について理解を深める。また、既習実習の振り返りを通して、次段階実習における自己の課題を明確にすることを目的とする。さらに、介護過程を展開する実習に向けて、不安なく実習に臨めるよう準備を行う。				
授業の目標				
①福祉用具の定義、意義、種類、選択および活用方法を説明できるようにする。 ②利用者の状態に応じた福祉用具を試作できるようにする。 ③これまでの実習や既習の生活支援技術を振り返り、次段階実習の課題を明確にできるようにする。 ④自己の介護観を確立できるようにする。				
授業の方法				
講義・演習・視聴覚教材の活用・グループワーク・実習オリエンテーションおよびまとめ等、多様な授業形態をとる。				
学習の成果(学習成果)				
①福祉用具の意義を踏まえて、選択と活用のポイントを説明することができる。 ②介護保険法の対象となる福祉用具を説明することができる。 ③利用者個々のニーズに応じた福祉用具を選択、工夫、活用することができる。 ④介護過程を展開する実習に向けて、他授業で学んだ知識・技術を確認することができる。 ⑤自己を客観的に見つけ、次段階実習における課題を明確にすることができる。 ⑥さまざまな生活の場や介護の場における介護実践能力を高めることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法など)、「介護実習の手引き」配布			
第2回目	居宅介護実習Ⅱ(訪問介護)の準備(実習上の留意点、実習記録一式配布)福祉用具試作品発表会について説明(発表方法、評価方法等)			
第3回目	利用者の生活の場に対応する介護の理解①:福祉用具に関する知識の確認			
第4回目	利用者の生活の場に対応する介護の理解②:事例に応じた福祉用具の活用			
第5回目	介護の在り方を考える①:グループ討議			
第6回目	介護の在り方を考える②:発表			

第7回目	施設介護実習Ⅱの準備(施設情報一覧と希望調査票の配布・説明)		
第8回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認①(卒業時共通試験内容を含む)		
第9回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認②(卒業時共通試験内容を含む)		
第10回目	施設介護実習Ⅱに向けた専門知識の活用①:専門知識の必要性、個人ワークの進め方		
第11回目	施設介護実習Ⅱに向けた専門知識の活用②:個人ワーク		
第12回目	施設介護実習Ⅱの準備(個人票、誓約書記入、「課題と抱負」用紙配布・説明)		
第13回目	居宅介護実習Ⅱ(訪問介護) 報告会・まとめ 【レポート:訪問介護実習の振り返り用紙】		
第14回目	施設介護実習Ⅱの準備(検便容器配布・説明)		
第15回目	施設介護実習Ⅱの準備(実習記録一式配布)、授業のまとめ *施設介護実習Ⅱオリエンテーションおよび反省会は別日程にて実施		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		40%	S評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことをノートにとっている。③課題等の提出期限を守っている。④グループワークに積極的に参加し、自分の考えを述べている。
レポート		10%	第13回目にレポートを課す。Sのレポートは、訪問介護実習を振り返り、学び・気づきが具体的に記述されていること。自己の課題等が明確にできていること。
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容(態度含む)		50%	福祉用具試作品および発表態度を以下の内容で評価する。【作品】①アイディアのよさ ②ネーミング ③実用的・経済的であるか等 【発表態度】①声の大きさ ②言葉遣い ③分かりやすい説明か ④説得力があるか
その他			
教科書と参考図書			
新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護実習の手引き			
履修上の留意点・ルール			
学生の個人・グループワークが中心である。積極的に意見交換し学びを共有して欲しい。 飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合には、速やかに届け出を提出すること。			